

問題一 次の文章には誤った漢字が一箇所ある。訂正し漢字で記せ。

- A 家から職場にバスで異動した。 B 晴れたので笠を閉じた。
C 試験は簡短ではなかった。 D 昨晚、学校で補護者会があった。 E 水が帰化した。

問題二 A文語定型詩、B口語自由詩について説明した適切な文章を次の記号の中から選んで記せ。

- A 文語文法で書かれたふぞろいの詩を指す
イ 口語文法で書かれたふぞろいの詩を指す
ウ 文語文法で書かれた規律のある詩を指す
エ 口語文法で書かれた規律のある詩を指す
オ 文語と口語で書かれ不揃いな詩を指す
カ 文語と口語で書かれ規律のある詩を指す

問題三 次の語句の意味を正しく述べているものを各組の中から選び、符号で答えよ。

- A アイロニー
1 お世辞 2 反論 3 皮肉 4 同調
- B イデオロギー
1 思想傾向 2 形勢逆転
3 中立中正 4 思想統一
- C エピソード
1 総和 2 聡和
3 送話 4 挿話
- D オブザーバー
1 傍観者 2 観客 3 主人 4 審判
- E カテゴリー
1 仲間 2 部類 3 枠外 4 一部

問題四 次の空欄□に共通して入る適切な漢字を一字記せ。

- A □期□会 B 右□左□ C □問□答
D □体□命 E □立□歩

問題五 傍線部の助動詞の意味を次の記号の中から選んで記せ。

- ① 弟にやらせる。
② 父は銀行員だ。
③ 君にも答えられる。
④ 彼も参加したい。
⑤ お客様が帰られる。
ア 希望 イ 可能 ウ 尊敬 エ 断定 オ 使役

問題六 次の【I群】のA～Eにあたる敬語の種類を、【II群】の①～③の中から選び、符号で答えよ。

- 【I群】 A いたたく B めしあがる C 申し上げる D ございます E いらっしゃる
- 【II群】 ①尊敬語 ②謙譲語 ③丁寧語

問題七 次の文章を読み、後の問に答えよ。

出口のほうへと崖の下をあるく。なんの見るものもない。後ろで妻が「おや、どんぐりが」と不意に大きな声をして、道わきの落ち葉の中へはいつて行く。【A】「落ち葉に⑦交じって①ムスウのどんぐりが、凍てた崖下の土にころがっている。妻はそこへしゃがんで熱心に拾いはじめ。見るまに左の手のひらにいっぱいになる。余も一つ二つ拾って向こうの便所の屋根へ投げると、カラカラところがって向こう側へ落ちる。妻は帯の間からハンケチを取り出して④膝の上へ広げ、熱心に拾い集める。「もう大概にしないか、ばかだな」と言ってみたが、B「なかなかやめそうもないから便所へはい。出て見るとまだ拾っている。」「いたいそんなに拾って、どうしようと言うのだ」と聞くと、おもしろそうに笑いながら、「だつて拾うのがおもしろいじゃありませんか」と言う。ハンケチにいっぱい拾って⑨包んでだいじそうに縛っているから、もうよすかと思うと、今度は「あなたのハンケチも⑤貸してちょうだい」と言う。とうとう余のハンケチにも何合かのどんぐりを満たして「もうよしよしよ、帰りましょう」とどきどきまでもいい気な事をいう。

どんぐりを拾って喜んだ妻も今はない。お②ハカの土には昔の花がなんべんか咲いた。山にはどんぐりも落ちれば、鴨の鳴く音に落ち葉が③ふる。ことしの二月、あけて六つになる忘れ④カタミのみつ坊をつれて、この植物園へ遊びに来て、昔ながらのどんぐりを拾わせた。こんな⑥些細な事にまで、C「遺伝」というようなものがあるものか、みつ坊は非常におもしろがった。五つ六つ拾うことに、息はずませて余のそばへ飛んで来て、余の⑤ボウシの中へひろげたハンケチへ投げ込む。

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部⑦～⑨の漢字の読みを平仮名で示せ。

問三 【A】に入る適切な語句を次の記号から選んで記せ。

ア もちろん イ そして ウ いわゆる エ なるほど オ とはいえ

問四 傍線B「なかなかやめそうにない」とありますが、その理由に該当する箇所を本文から九字で抜き出せ。

問五 傍線C「遺伝」とは、どのような内容を指しているか、簡潔に説明せよ。

問六 この文章の作者名である寺田寅彦の文章の師にあたる作家名を次の記号から選べ。

ア 森鷗外 イ 夏目漱石 ウ 谷崎潤一郎 エ 川端康成 オ 三島由紀夫

